

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	職員間の連携が子どもの居場所作りにつながっています
	内容	職員同士の連携が十分に機能しており、子どもが安心して過ごせる居場所づくりに大きく寄与しています。申し送りや記録の共有を通じて、子どもの様子や変化に関する情報が組織的かつ継続的に共有され、職員間で互いに補い合いながら支援にあたる姿勢が徹底されています。さらに、個々の子どもの特性やニーズに応じたきめ細やかな対応も行われており、子どもは「誰にでも安心して頼れる大人がいる」と感じられる環境が形成されています。こうした体制は、学童内での居心地のよい居場所づくりや子どもの安心感の向上に大きく貢献しています。
2	タイトル	学校や他学童との連携を図り、子どもたち一人ひとりの背景に寄り添った育成をしています
	内容	設立から3年という新しい学童クラブとして、学校や他学童との連携を目標の1つとしてきましたが、今年度より学童クラブ便りを学校にも配布してクラブの情報を提供したり、年4回、1年生担任との打ち合わせ会議を定期的に行うことができるようになりました。子どもたちの学校での様子や学童クラブでの過ごし方などを共有して、子どもたち一人ひとりの背景をより理解して育成にあたっています。また、第1から第3の学童クラブが合同でイベントを開催したり、他クラブから移動してきた子どもたちの情報を共有するなどの交流を行っています。
3	タイトル	通い続けるための工夫が随所に見られます
	内容	子どもが安心して通い続けられるよう、多様な工夫が日々の運営に取り入れられています。特に、遊びの要素を大切に環境づくりが特徴的で、子どもが自分のペースで楽しめる場が整っています。遊びの選択肢が幅広く用意されており、室内遊び・外遊びともに、子どもの興味や発達段階に応じて選べるよう工夫されています。また、季節の遊びやイベントを取り入れることで、学童に来ることそのものが楽しみになる仕掛けづくりが行われています。「ここに来たい」「また遊びたい」自然に感じられる居心地の良い環境が形成されています
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	卒所した子どもたちや保護者への不安の軽減に向けて、更なる取り組みを期待します
	内容	卒所に際しては、保護者からの不安の声なども多く寄せられています。学童クラブの近くで怪我をした子どもがいた際に、卒所した子どもが機転を利かせてクラブに知らせに来て、無事に対応できたという事例もありましたが、サービスの終了に向けて、更に不安を軽減するための取り組みも望まれます。ここに来ればいつも信頼できる大人がいること、不安なことがあったら誰でも来てよいことなどを広く子どもたちにアピールしたり、卒所後に一人で留守番をする際に気を付けることなどについての安全学習の機会を設けるなどの取り組みにも期待します。
2	タイトル	業務手順を可視化しいつでも確認できる体制作りが期待されます
	内容	職員間の連携が十分に図られているため、現在は業務手順を文書として明確に整備する段階には至っていません。しかし、今後は業務ごとの手順や対応フローを分かりやすく文書化し、いつでも確認できる体制を整えることで、支援の質の均一化がより進むことが期待されます。こうした業務手順の可視化は、異動してきた職員がスムーズに支援に移行できる環境づくりにもつながり、継続的かつ安定した支援体制の構築に寄与します。結果として、子どもに対して一貫して安心・安全なサービスを提供できる基盤の強化につながると考えられます。
3	タイトル	子どもたちの心身の健康維持に向けて、更なる取り組みが求められます
	内容	クラブ内の手洗い場にはイラスト付きの手洗い方のポスターが掲示されており、職員もクラブに来所したら手洗いやうがいなどを促す声掛けを行い、感染症の予防などに努めています。けれども、子どもたち自身が病気や怪我の予防にどう関心を持てるようにする取り組みに関しては、少し意識が低いように見受けられます。年間指導計画には養護(健康)の項目が設けられて、月案の中にも健康に関わる内容が明記されています。夏の水分補給などについては、保護者からも要望が寄せられていることから、更に意識した取り組みが求められます。